

学 位 論 文 要 旨

氏 名 ラランディソン ツィラブ

題 目 マダガスカルにおける米の公正なマーケティングシステム形成の条件
(Necessary Conditions for a Fair Rice Marketing System in Madagascar)

マダガスカルにおいて食料安全保障問題や経済発展の基礎となる国内の消費者や農家の可処分所得向上方策を練るとき、国内の米価形成に関する研究は緊急かつ不可欠な課題である。そこで本研究は、長期に亘る高い小売米価と持続する低い生産者米価の要因分析を行い、この米価による消費者と農家への影響を検討した。さらに、市場メカニズムや競争原理に基づく米の自由市場環境下で米の公正な取引システム構築に不可欠な農協の発展上の問題点と必要条件を検討した。

これまで、マダガスカルにおける米価形成に関する詳細な研究は無く、単に、国際米価が国内米価を決定づけるというような議論を少数散見するにとどまった。また、米市場自由化が消費者や農家に及ぼす影響や農協に関する著述もまだ研究論文の域に達していなかった。この意味で、本研究はマダガスカルにおける米市場流通問題を本格的に最初に分析したものであり、社会的経済的に脆弱な立場の消費者や農家に焦点をおいた実態調査に基づく最初の研究である。

本研究は、最大の米消費都市である首都アンタナナリボでの 200 消費者調査、首都へ米供給する最大稲作地域アラオトラやボンゴラバでの 235 農家調査やアメリカ導入とフランス導入の 17 農協調査、卸売・小売・産地集荷業者など流通業者、政府、国際機関などを対象とした実態調査に基づいて分析を行った。分析の結果、次の諸点が判明した。

第1に、低い生産者米価は、米生産費をカバーせず米の低生産性要因であり、調査農家の 70% を生活費や生産資材費の為の負債者となし、産地集荷業者の青田買いを許す要因となっていることである。低い生産者米価の要因は、市場規則に則った卸売市場がないこと、農家が輸送手段や情報収集力を持たず産地集荷業者に対し価格交渉力がないことである。第2に、高い小売米価が、首都在住消費者の生活費の 77% を占める食費の要因となり、最近 5 年間の小売米価急騰によって食費に占める米購入費は 59% を占めるに至ったことである。第3に、高い小売米価の要因は、唯一巨大私企業が大きな市場シェアを調整し、販売と加工機能の垂直的統合によって高い利益を得、アラオトラ地域米販売量の半分以上を集め加工する最大の加工場を有し、輸入米を独占的に扱う閉鎖的流通構造にあること、その状況下で政府が多様な流通規制を緩和し、クローズドな価格決定メカニズムをとっていることである。しかし、第4に、農協の普及率は極めて低く、生産技術指導を行うが米生産性改善に不十分であり、一方、信用事業に取り組んでいないこと、フランス型農協では組合員の米を集荷し貯蔵し地方の卸業者へ販売するだけの販売事業を行っていることである。第5に、農協の組合員でさえ協同組合の理念、原理、目的、組合員の有利性も知らない状況であり、組合加入理由は物的寄付を得られることや財政的支援が得られることと捉えているに過ぎないことである。

以上から、本研究は、マダガスカルでは米自由市場下の市場流通問題解決には、不完全競争と独占の弊害の規制、米卸売市場建設による流通の改善と近代化、農協導入・普及による農家支援体制構築などの点で政府介入の必要性を提唱した。

学 位 論 文 要 旨

氏 名 Ralandison, Tsilavo

題 目 Necessary Conditions for a Fair Rice Marketing System in Madagascar
 (マダガスカルにおける米の公正なマーケティングシステム形成の条件)

This study seeks to identify the causes of low rice farm gate prices and high retail prices in Madagascar, the effects of the unregulated rice marketing system on farmers and consumers, and the problems of agricultural cooperatives. In light of the national food security problem and the challenge of economic growth, it is vitally necessary to improve food access and household disposal income. Thus, the study of the formation of domestic rice prices in Madagascar is crucial. However, previous studies done on this topic are few, and merely argue that international prices determine domestic rice prices. In addition, the effects of the free rice market policy on farmers and consumers as well as the issues on agricultural cooperatives have not yet been adequately documented. The significance of this study is that our research project is the first comprehensive study on rice marketing in Madagascar since the adoption of the liberalization policy in early 1980s. This work is based entirely on data collected from field surveys, and primarily focuses on the vulnerable consumers and farmers. The data come from the interviews of 200 consumers in the capital city, Antananarivo; and of 235 farmers, 17 agricultural cooperative officials, 60 rice merchants, and other key informants in the two main rice supplying regions of the capital city, *Alaotra* and *Bongolava region*.

The results of this study are: (1) farmers could not even cover their production costs due to low rice farm gate prices. Farmers were not able to invest in agricultural equipment and improved farming technique. Therefore, the productivity, rice outputs and household income were low. Low income in turn caused financial dependence; 70 percent of the surveyed farmers got loans to meet their living and farming expenditures. (2) Low farm gate prices were due to the lack of market regulations and institution such as wholesale market. Prices were determined through individual negotiation; however, the farmers were proven not to have any bargaining power due to their financial dependence on the village assemblers. In addition, due to the lack of transportation means and access to market information, the farmers had no other market choice but the village assemblers. (3) High rice retail prices overburdened the majority of the urban consumers. Food expenditure represented 77 percent of the total household expenditure, and rice spending represented 59 percent of the food expenditure. (4) High rice retail prices were caused by one large private company who cornered the market through a vertical integration of the overall marketing operations in the domestic rice market and a domination of the import trade. As many government regulatory functions were slackened and wholesale markets' functions based on market law did not exist, transaction methods and the pricing mechanism were not opened. (5) The membership and penetration rate of agricultural cooperatives was very low because the cooperatives' functions were not significant in improving the farmers' productivity and income. (6) The majority of the farmers surveyed, including cooperative members, were not aware of the cooperative's principles and objectives, the members' advantages and obligations.

The conclusions of this study are: even if the rice marketing is liberalized, it is not reasonable to leave everything to the market economy given the importance of rice to the survival of consumers and farmers and to the national economy. Government intervention is more than needed to control unequal competition and monopolistic power, and to promote modernization in marketing through the creation of rice wholesale markets. Agricultural cooperatives should be re-introduced and promoted in order to support farmers.

学位論文審査結果の要旨	
学位申請者 氏 名	Ralandison, Tsilavo
審査委員	主査 佐 賀 大学 教授 白武 義治
	副査 佐 賀 大学 教授 小林 恒夫
	副査 鹿児島 大学 教授 岩元 泉
	副査 琉 球 大学 教授 仲地 宗俊
	副査 鹿児島 大学 教授 田代 正一
審査協力者	
題 目	Necessary Conditions for a Fair Rice Marketing System in Madagascar マダガスカルにおける米の公正なマーケティングシステム形成の条件
<p>開発途上国において食料安全保障問題の解決策や経済発展の基礎となる国内の消費者や農家の可処分所得を向上させる方策を検討するとき、国内の米価形成の仕組みの改善に関する研究は緊急かつ不可欠な課題である。そこで本研究は、マダガスカルを事例に、長期に亘る高い小売米価と低い生産者手取り米価の要因分析を行い、この米価による消費者と農家への影響も検討した。さらに、市場メカニズムや競争原理に基づく米の自由市場環境下で米の公正な取引システム構築に不可欠な農協の発展上の問題点と必要条件を検討した。</p> <p>これまで、マダガスカルにおける米の価格形成に関する詳細な研究は無く、単に、国際米価が国内米価を決定づけるというような議論を少数散見するにとどまった。また、米市場自由化が消費者や農家に及ぼす影響や農協に関する実態報告も研究論文として提出されたものではなかった。この意味で、本研究はマダガスカルにおける米市場流通問題を本格的に分析した最初のものであり、社会的経済的に脆弱な立場の消費者や農家に焦点をおいた実態調査に基づく研究である。</p> <p>本研究は、最大の米消費都市である首都アンタナナリボでの200消費者調査、</p>	

首都へ米供給する最大稲作地域アラオトラやボンゴラバでの 235 農家調査やアメリカ主導型とフランス主導型の 17 農協調査、卸売・小売・産地集荷業者など流通業者、政府、国際機関などを対象とした実態調査に基づいて分析を行った。分析の結果、次の諸点が明らかになった。

第 1 に、米生産費をカバーできない低い生産者手取り米価は、米の低生産性の要因である。調査農家の 70% が生活財や生産資材の購入の為に負債者に陥り、産地集荷業者による青田買いを許す要因となっている。低い生産者手取り米価の要因は、市場規則に則った卸売市場がないこと、農家が輸送手段や情報収集力を持たず産地集荷業者に対し価格交渉力がないことである。第 2 に、高い小売米価が、首都在住消費者の生活費の 77% を占める食費の要因となり、最近 5 年間の小売米価急騰によって食費に占める米購入費は 59% を占めるに至ったことである。第 3 に、高い小売米価の要因は、唯一巨大な私企業がアラオトラ地域産の米販売量の半分以上を集め加工する最大の加工場を有し、大きな市場シェアを調整し、加工と販売の機能の垂直的統合によって高い利益を得ていること、輸入米を独占的に扱う閉鎖的流通構造にあること、その状況下で政府が多様な流通規制を緩和し、クローズドな価格決定メカニズムをとっていることである。しかし、第 4 に、農家を支える協同組合の普及率は極めて低く、生産技術指導を行うが米生産性改善に不十分であり、一方、信用事業に取り組んでいないこと、フランス型農協では組合員の米を集荷し貯蔵し地方の卸業者へ販売するだけの販売事業を行っていることである。第 5 に、組合員農家でさえ協同組合の理念、原理、目的、組合員の有利性を認識している状況ではなく、協同組合への加入理由は物的寄付を得られることや財政的支援が得られることと捉えているに過ぎないことである。

以上から、本研究は、マダガスカルでは米自由市場下の市場流通問題解決には、不完全競争と独占の弊害の規制、米卸売市場建設による流通の改善と近代化、農協導入・普及による農家支援体制構築などの点で政府介入の必要性を提唱した。

以上のように、本研究は、マダガスカルにおける米の生産から消費に至る膨大な構造を対象事例とする克明な実態調査分析から、世界の開発途上国における米の市場構造と農協による市場対応のあり方にまで及ぶ価値ある新知見を提起した。そこで、本論文は、博士（農学）の学位論文として十分に価値あるものと判定した。

最終試験結果の要旨	
学位申請者 氏名	Ralandison, Tsilavo
審査委員	主査 佐賀大学 教授 白武 義治
	副査 佐賀大学 教授 小林 恒夫
	副査 鹿児島大学 教授 岩元 泉
	副査 琉球大学 教授 仲地 宗俊
	副査 鹿児島大学 教授 田代 正一
審査協力者	
実施年月日	平成22年 1月 10日
試験方法 (該当のものを○で囲むこと。) <input checked="" type="radio"/> 口答・ <input type="radio"/> 筆答	
最終試験結果の要旨 上記の主査および副査の5名は、平成22年1月10日の公開審査会において、学位申請者に対して、学位申請論文の内容について説明を求め、その内容および関連事項について試問を行った。具体的には別紙のような質疑応答がなされ、いずれも満足できる回答を得ることができた。 以上の結果から、審査委員会は申請者が博士（農学）の学位を受けるに必要な十分な学力ならびに識見、研究能力を有すると認めた。	

学位申請者 氏名	Ralandison, Tsilavo
<p>[質問1] マダガスカルの子米の自給率はいくらですか。米が輸入されるとしたら、その理由と、主にどの国から輸入されているのか説明下さい。</p> <p>[回答1] 米の自給率は年によって変わりますが、約90%です。米は約10%が輸入されます。その輸入米はほとんど都市に供給されます。例えば、首都では供給量の50%が輸入米です。輸入米が安価であるため輸入されます。最近、主にパキスタン、タイ、中国からです。</p> <p>[質問2] 過去、コメ市場の自由化以前、政府が米を管理した時期に、農協か、あるいは農協みたいな組織が存在しなかったですか。</p> <p>[回答2] 農家組織はありましたが、農協とはいえません。1960年独立後、政府はフクヌルナと呼ばれる農村共同体を活用していました。政府はフクヌルナに多様な機能、農村開発、社会開発、公民教育や警察への協力などの義務を付与していました。1970年代、バトエカに変わって経済機能も拡充されました。バトエカが集落の中で農家の米を集荷して政府の米流通機関 (Parastatal Agencies) に渡していました。</p> <p>[質問3] 今の農協は機能していないという実態がわかりましたが、その農協はどのようにして組織されたのですか。農民は主体的な意思で組織し加入しましたか。それともリーダーか、政府が人を集めて指令して、組織を作ったものですか。</p> <p>[回答3] 現在の農協は、外部、フランスとアメリカの組織が導入しました。</p> <p>[質問4] フランス型農協、アメリカ型農協という表現を使っていますが、それらが農協といえますか。その農協は短期的に支援を受けた組織であり、単に支援を受けるための組織ではなかったですか。日本にある農協とは違う組織ですね。マダガスカルでは農協と呼んでいますか。</p> <p>[回答4] はい。農協と呼んでいます。法律上でも農協です。ただし、ご指摘のとおり、農協の機能や事業内容はまだ不十分なものです。</p> <p>[質問5] フランス型農協とアメリカ型農協は一つの地域の中で組織されていますか。</p> <p>[回答5] 同じ地域では二つのタイプの農協はありません。フランス型がある地域はアメリカ型はありませんでした。</p> <p>[質問6] 支援国のタイプに合わせて農協の組織を作っているということですね。</p> <p>[回答6] はい、そうです。世界で一般的に見られる農協はドイツ型ですが、フランスの植民地であったところ、アメリカの影響が強かったところでは進展しなかったようで</p>	

す。マダガスカルはフランスの植民地だったので、そういう意味で、我々が考えているドイツ型、つまりライファイゼン型 (Raiffeisen) は存在しませんでした。

〔質問 7〕 本文の内容について質問します。第 1 に、39ページ図3-1と52ページ図4-1ですが、なぜNominal Priceが上昇しているのに、Real priceはそれほど上昇しなかったのですか。第 2 に、44ページの表3-1について、米の消費量はRichよりVulnerableのほうがなぜ多いのですか。第 3 に、100ページの表6-1によると、二つの地域の収量は大きく違いますが、なぜですか。以上説明下さい。

〔回答 7〕 第 1 について、インフレレートが高いからです。第 2 について、豊かな家庭よりVulnerableの家庭のほうが米を多く食べるからです。豊かな家庭は他にも選択肢がありますので、米だけではなくパスタやパンも食べます。第 3 について、灌漑施設も含めて、土地条件が違うからです。

〔質問 8〕 第 1 に、本研究では、途上国でよく見られる「農家が中間商人から生産・生活資金を前借りして、その返済の為に安い価格で米を売るという悪循環」の解決手段は、卸売市場を巡る規制と農協事業のあり方にあると論じています。しかし、マダガスカルのMカンパニーという唯一巨大な米業者が存在する状況で、独占市場環境で、米卸売市場は設置可能か、また機能できるか。第 2 に、米の卸売市場を論じる時、どのような形態をイメージしているのですか。例えば、シカゴの穀物市場 (Futures Market) ですか、日本の米価格形成センターですか。第 3 に、農協自体がマーケティングチャンネルを持っていないことが問題だと思います。また、農協の概念を入れようとしたらConsumer Coopも議論すべきです。農協と生活協同組合を結び付けて議論すべきだと思います。消費者調査を行っていますが、なぜ生活協同組合について議論していないのですか。

〔回答 8〕 第 1 について、厳格なルールに則った米市場であれば導入は可能であり、イメージとして日本の青果卸売市場のような機能を有する政府管理下の米の卸売市場です。だから、第 2 について、日本の米価格形成センターをイメージしていません。たしかに独占市場ではありますが、ルールによって独占の形態を抑えることができ、需要と供給によって価格が設定される市場を想定しました。第 3 について、生活協同組合については検討しました。英国のRochdale型の協同組合も参考になりますが、やはりマダガスカルの事情にあった、マダガスカル的な協同組合を模索していく必要があると考えております。

〔質問 9〕 以前、政府が管理していた時代に卸売市場は正当な機能を持っていましたね。だから、現在も政府がきちっと機能を維持したらいいのではないか。

〔回答 9〕 ワールドバンクが創設している首都の小売市場にはルールがない。だから、

米やその他の農産物の価格形成もクローズドに行われています。そうするとモデルはないですが、日本の青果卸売市場が有する5つの機能（価格形成機能・集荷機能・分荷機能・情報伝達機能・決済機能）の導入が考えられます。

[質問10] 市場マインドというか、マーケットメカニズムが、未成熟な国に導入されています。とても難しい経済環境ですね。

[回答10] そうです。だから、本研究は、将来、マダガスカルにおいてどのように米の流通やその他農産物の流通を整備していけばいいのか、一つの示唆を提供しています。

[質問11] マダガスカルの人口は2000万人、国土の大きさは日本の1.6倍であり、人口密度は低いですね。人口は都市に集中していますか。人口密度が低いですから、都市と比べ農村は非常に過疎ですね。農民が多いわけですから、米の持つ意味は農民にとって何でしょうか。自分で作って自分で食べるそういうのと、米を生産して売って生活することのどちらが多いでしょうか。

[回答11] 首都の人口は200万人ぐらいで、地方の人口はとても少ないです。多くの農家は自給自足ですが、私たちの調査対象は米を生産して売って生活する稲作農家です。

[質問12] Mカンパニーのような大きい価格形成力を持った、力のある流通資本というのは他にもありますか。首都の市場は国内市場のどれくらいを占めていますか。論文に示す流通構造は一般的ですね。

[回答12] Mカンパニーが一番大きく、他に少数の輸入会社もあります。首都の米市場は国内市場の20%ぐらいです。論文に示す流通構造は一般的だといえると思います。